

研究発表もうしこみフォーム

氏名：スルナ

氏名のローマ字表記：Surna

所属：千葉大学大学院 人文公共学府 博士後期課程 1年

専門分野：文化人類学

発表のタイトル：モンゴル牧畜民の家畜に対する民間療法—中国甘肅省肅北モンゴル族自治県の事例から

発表要旨：

本発表の目的は、中国甘肅省肅北モンゴル族自治県（以下、肅北県）に居住するモンゴル牧畜民による家畜の病気とケガに対する民間療法を具体的に明らかにすることである。

肅北県は、中国甘肅省の北西部に位置する。同県 37.9%を占める計 5000 人のモンゴル人が暮らしている。飼養家畜は、ヤギ、ヒツジ、ウマ、ヤク、ラクダである。本稿で取り上げられた家畜の症例と対処法は、これらの家畜種に対するものである。

現地調査は牧畜を専業とする牧畜民 2 名、施術経験が豊富な民間獣医師 1 名に対して行った。彼らに「家畜の病気とはどんなものがあるか」、「治療が必要とされる症状」、「家畜の病気予防」や「家畜の健康管理方法」などを質問し、具体的な症例と対処法を 63 例、予防法 10 例収集した。

そのうち、「軽症」に対しては、「薬材」の服用、患部の洗浄、患部に塗擦、出血面を焼くといった治療法が用いられている。対処法の中で、服用の「薬材」として使われるのは、アルツン（和名：沙地柏、学名：*Juniperus arenaria*(Wils.)Florin）、ソーダ、酢、子ヒツジ・子ヤギの睾丸、野生ウサギの肉といったものである。洗浄、塗擦に主に使用されるのはアルツン、天然塩、花椒といった身近にあるものである。死に至る可能性が高いと思われる「重症」に対しては、上記の対処法に加えて、針刺治療、瀉血治療、現地モンゴル語でドムナホと呼ばれる治療法が行われる。この際、治療は施術経験が豊富で熟練している牧畜民か専門の獣医がおこなう。家畜の健康管理である疾病の「予防」および去勢施術も経験が豊富な牧畜民か専門の獣医に依頼する。一方、病気やケガに対して近代的な医薬品の使用や予防接種など病気予防のための近代的な医薬品の効果が認められつつあり、その使用頻度が増えつつある。

(717 字)